

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2018 January to March vol.197

京都国立博物館

だより

二〇一八年
一・二・三月号

新春特集展示

いぬづくし ― 干支を愛でる ―

特集展示

御所文化を受け継ぐ

― 近世・近代の有職研究 ―

特別企画

貝塚廣海家コレクション受贈記念

豪商の蔵 ― 美しい暮らしの遺産 ―

特集展示

雛まつりと人形





白釉犬 京都国立博物館



仏涅槃図（部分） 京都国立博物館



加彩婦女俑 京都国立博物館

干支にちなんだこの特集展示、平成二十八年の申年以來継続しておりますが、実は明治三十四年から同四十三年まで続けられていたことはご存じでしょうか。古くて新しいこの企画、平成三十年は犬を特集テーマといたします。

社会性の高い犬は、古くから人間の友達として愛されてきました。現在は様々な犬種が外国から日本にやってきておりますが、日本犬として天然記念物に指定されているのは、柴犬、紀州犬、四国犬、北海道犬、甲斐犬、秋田犬の六種です。

このうち、柴犬と並んでポピュラーな紀州犬という白をイメージしますが、これは猟の際に獲物や山林に紛れないようになどの理由による淘汰の結果とされます。犬は、やはり猟犬としての歴史が古く、大和朝廷の頃から白が好まれていたようです。

一方で、犬は愛玩の対象でもありました。



新春特集展示

いぬづくし —干支を愛でる—

平成29年12月19日(火)〜平成30年1月21日(日)

平成知新館 2F-1・2



嵯峨人形 犬 京都国立博物館

特に、小型室内愛玩犬として狎なと呼ばれる一類があります。現在では白黒の長毛で鼻がくしゃっとつまつた（短吻種といいます）ジャパニーズ・チンと呼ばれる日本原産の改良・固定種が狎とされていきますが、これは明治時代以降の話です（国井応文・望月玉泉筆「花卉鳥獸図巻」参照）。

狎の歴史は非常に古く、かつては外来の小型室内犬を狎と称していたようです。「続日本紀」天平四年（七三二）五月十九日条に新羅から「蜀狗一口」が献上されたという記録がありますが、これはチベット原産の短吻種犬が中国四川省を経て朝鮮半島に伝わり、日本に伝来したと考えられています。

その後も、南蛮貿易などで小型犬が日本にもたらされ、日本でジャパニーズ・チンに改良されていったとされます。しかし、江戸時代には、短吻種だけではなく、長吻種の日本テリアに近い姿のものも狎と呼ばれていました（嵯峨人形「犬」参照）。ちなみに、嵯峨人形のように手で愛玩する郷土玩具で犬を表現する場合、座敷犬であった狎を表現する場合が多数を占めます。

当館に所蔵・寄託される名品佳品を通じて、古くからの犬と人とのかわりに思いを馳せていただければ幸いです。

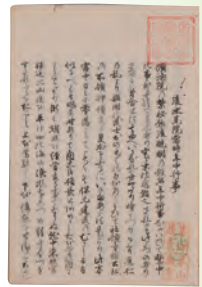
（大原嘉豊）



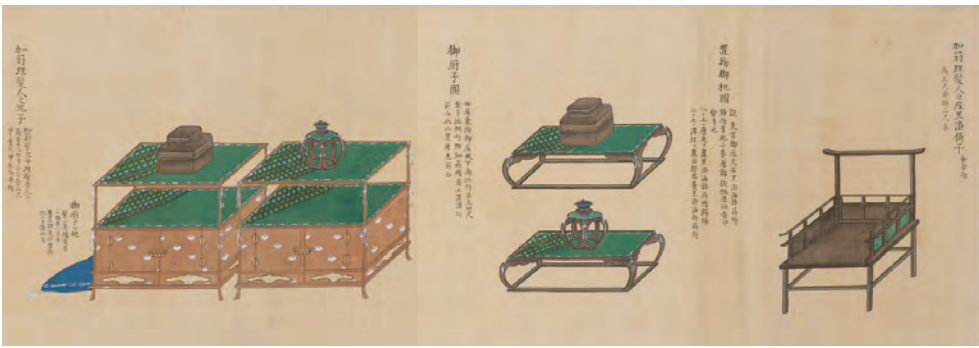
花卉鳥獸図巻（部分） 国井応文・望月玉泉筆 京都国立博物館



獅子・狛犬 峰定寺伝来 京都国立博物館



後水尾院當時年中行事
京都国立博物館



諸殿調度図(部分) 京都府寄贈・京都国立博物館

特集展示

御所文化を受け継ぐ

— 近世・近代の有職研究 —

平成29年12月19日(火)～平成30年1月28日(日)

〔平成知新館 1F-2・4〕

折しも皇室の行事に関する報道が打ち続く本年。特集展示「御所文化を受け継ぐ」では、特別展示室(1F-2)に加え、書跡と染織の展示室(1F-3・4)の三室にわたって、皆さんを日本の宮廷を彩った品々と、それを伝えるために尽力した人々の世界へとご案内します。

冒頭となるのは1F-2展示室。江戸時代の有職研究の姿を伝える写本と、当館が所蔵する京都御所旧蔵品が並びます。皇室を中心とする公家社会が、武家の台頭によって経済的に疲弊していく中、公家たちは先人が記した膨大な量の日記や有職関係の記録を書き写し、何とか伝統を受け継ごうとしました。その姿の一端を、当館が所蔵する写本から見ていきます。中でも「後水尾院當時年中行事」(上皇、のちには法皇)が、当時の宮中における年中行事を記した一書で、その序文には、



元服用 台
京都国立博物館

「せめて「衰微の世のたたずまい」を失うことがないように、との切実な真情が吐露されています。このような人々の熱意から、宮廷行事は次第に復興を遂げていきます。京都御所において用いられた調度類は、それを示すものでもありません。このたびは、当館



小直衣 松重三菊丸文様縫取織
有栖川宮織仁親王所用 京都国立博物館

に寄贈された京都御所旧蔵品の中から、皇太子の元服用に用いられた品々を中心にご覧いただけます。

続く1F-3展示室では、有栖川宮家に伝来した江戸時代の皇族男性の服飾を中心に、束帯・直衣・小直衣といった、着用の場に合った各種の衣服を展示します。社会的な立場を示すという衣服の機能を反映し、さまざまな決まりごとが存在した公家服飾の世界を垣間見ることができるといえます。

最後となる1F-4展示室は、天皇に近侍する女官や皇族女性の典雅な服飾がテーマです。江戸時代初期の東福門院と昭和初期の秩父宮妃の二つの五衣唐衣裳装束、いわゆる十二単を比較することにより、有職研究の成果を確かめます。

このたびの展示は、三年間にわたって実施してきた、宮廷で用いられてきた調度や染織品の科研究費による調査成果を反映した内容となります。日本の伝統的な色や形を再発見する機会になれば幸いです。(山川 暁)

平成知新館
名品ギャラリー

3F-1 陶磁

【日本と東洋のやきもの】

平成30年1月2日(火)～3月11日(日)

*12月19日(火)～平成30年1月1日(月・祝)、3月13日(火)～18日(日)は休室

3F-2 考古

【日本出土の考古遺物】

平成30年1月2日(火)～3月11日(日)

*12月19日(火)～平成30年1月1日(月・祝)、3月13日(火)～18日(日)は休室

2F-1 絵巻

【新春特集展示

いぬづくし―千支を愛でる―】

12月19日(火)～平成30年1月21日(日)

【肖像図巻】

1月23日(火)～2月18日(日)

【弘願本―法然伝と親鸞伝―】

2月20日(火)～3月18日(日)

2F-2 仏画

【新春特集展示

いぬづくし―千支を愛でる―】

12月19日(火)～平成30年1月21日(日)

【涅槃図】

1月23日(火)～2月18日(日)

【立本寺蔵―金字法華経宝塔曼荼羅図(重文)―
修理完成記念 法華経と釈迦の美術】

2月20日(火)～3月18日(日)

2F-3 中世絵画

【東福寺の絵師―明兆とその周辺―】

12月19日(火)～平成30年1月21日(日)

【着色花鳥図



特別企画

貝塚廣海家コレクション受贈記念

豪商の蔵—美しい暮らしの遺産—

平成30年2月3日(土)～3月18日(日) 平成知新館(1F-2-6)



青花牡丹唐草文盤



牡丹蒔絵香盆
(ト半家旧蔵)

廣海家は、泉州の港町、貝塚で栄えた商家です。米穀の廻船問屋として天保六年(一八三五)に開業し、肥料商、株式投資、銀行経営などで資本を蓄え、これを活かして地域の産業の発展を支えました。廣海家の敷地には、間口約三四メートルの巨大な町屋、茶室、そして四棟の土蔵がならびます。この蔵に眠っていた大量の書画、茶器、調度などが、当館へ寄贈されました。

当館による調査は足かけ六年に及び、寄贈作品は一〇〇〇件を超えました。このまれにみる大型寄贈を顕彰し、選りすぐりの優品をお披露目します。

第一章◆寺内町の廻船問屋

江戸時代の貝塚は、大名の支配地ではなく浄土真宗の願泉寺が治めた寺内町でした。廣海家は、本家にあたる明瀬家から分家した際に、願泉寺の住職から「広い海」という名を授かりました。海辺の町、貝塚に誕生した廻船問屋、廣海家を紹介するために、南蛮屏風、司馬江漢の富丘遠望之図、波文様に囲まれた明時代の青花の盤などを展示します。

第二章◆抹茶と煎茶

四棟の土蔵のうち一棟には、茶道具がぎっしりと詰まっています。主に四代当主が明治時代の終わりごろから戦前にかけて集めた品です。といっても、大金を積んで名物を入手したのではなく、地方の数寄者のひとりとして表千家の復興を支えるために、また、実業家同士の社交や骨董愛玩の楽しみを兼ねて茶の湯を満喫した結果、蓄積された道具です。同じころ流行した煎茶の道具もあり



青花水梅雜宝文急須



菊蒔絵 勝軍木庵光英作



金彩色絵染付菊花文菊形鉢



屈輪堆朱香合「張成造」銘

— 美しい花、愛らしき鳥 —

1月23日(火)～2月18日(日)

【室町幕府の唐物奉行・相阿弥とその周辺】

2月20日(火)～3月18日(日)

2F-4 近世絵画

【仙人大集合】

12月19日(火)～平成30年1月21日(日)

【天球院の障壁画】

1月23日(火)～2月18日(日)

【中国絵画を写す】

2月20日(火)～3月18日(日)

2F-5 中国絵画

【中国の仙人たち】

12月19日(火)～平成30年1月21日(日)

【奇想の画家・蘇仁山】

1月23日(火)～2月18日(日)

【特集展示 雛まつりと人形】

2月20日(火)～3月18日(日)

1F-1 彫刻

【日本の彫刻／神像と獅子・狛犬】

平成30年1月2日(火)～3月18日(日)

*12月19日(火)～平成30年1月1日(月・祝)は休室

1F-2 特別展示室

【特集展示 御所文化を受け継ぐ】

— 近世・近代の有職研究 —

12月19日(火)～平成30年1月28日(日)

【特別企画 豪商の蔵】

— 美しい暮らしの遺産 —

2月3日(土)～3月18日(日)

1F-3

【特集展示 御所文化を受け継ぐ】

— 近世・近代の有職研究 —

12月19日(火)～平成30年1月28日(日)

【特別企画 豪商の蔵】

— 美しい暮らしの遺産 —

2月3日(土)～3月18日(日)



四季草花図屏風 大岡春卜筆



ます。床の間には、明月記断簡、豊臣秀吉の消息伊藤若冲の笥図などをかけ、柴田是真の銘々盆などでお菓子を出しました。

第三章◆祝宴

別の土蔵には、宴席のための膳碗具や磁器の食器が何組も収まっています。大正九年（一九二〇）の三代当主の金婚式には、『光琳百図』の波文様を下絵にした金時絵の膳碗具を三十人分誂え、漢字者の長尾雨山に漢詩を認めてもらいました。江戸時代から当家に伝わる中国磁器の碗皿が、数十人前揃っているのも圧巻です。

第四章◆趣味と支援

歴代当主は、考古遺物を集めたり、能楽を楽しんだり、盆石で遊んだり、いずれも多趣味な人々でした。芸術家を援助して作品を購入したり、時には彼らと連れだつて釣りなどに興じました。橋本関雪、生田花朝の掛軸のほか、菊池契月の板文庫、西村五雲の手箱硯など、この時代ならではの創作をお楽しみください。

第五章◆婚礼—名家のネットワーク

商家の婚礼は、家業の発展に寄与する重要な機会でした。廣海家に嫁いだ花嫁たちは、一生分の豪華な衣装や時絵の調度を持参して、廣海家と実家をつなぐ架け橋の役を果たしました。大岡春卜の四季草花図屏風も、大正十三年（一九二四）の婚礼の際に新郎新婦の背景に立て回されていたことが当時の写真から分かります。

廣海家コレクションは暮らしの物語を纏ったまま、ひとまとまりで寄贈されました。関西の商家で幕末から戦前にかけて営まれた美しく豊かな暮らしが、そこに垣間見えます。ほとんどの品が初公開。どうぞお楽しみに！

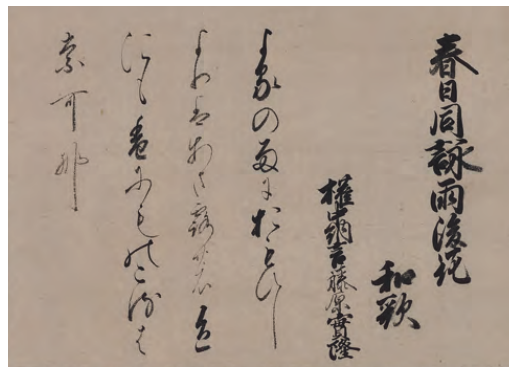
（永島明子）



海棠孔雀図 吉村孝敬筆



三ツ寄銀杏紋時絵婚礼調度のうち（のぶ所用）



和歌懐紙（春日同詠雨後花和歌） 三条西実隆筆



七宝雉形香炉



賀茂人形（本咲和子コレクションのうち）

1F-4

【特集展示】 御所文化を受け継ぐ
—近世・近代の有職研究—

12月19日（火）〜平成30年1月28日（日）

【特別企画】 豪商の蔵

—美しい暮らしの遺産—

2月3日（土）〜3月18日（日）

1F-5 金工

【梵音具】

12月19日（火）〜平成30年1月28日（日）

【特別企画】 豪商の蔵

—美しい暮らしの遺産—

2月3日（土）〜3月18日（日）

1F-6 漆工

【中国と琉球の漆芸】

12月19日（火）〜平成30年1月28日（日）

【特別企画】 豪商の蔵

—美しい暮らしの遺産—

2月3日（土）〜3月18日（日）



特集展示

雛まつりと人形

平成30年2月20日(火)～3月18日(日)
平成知新館(2F-5)

春の訪れとともに、本年もまた雛の節供がめぐってきます。京都国立博物館では、恒例の人形の特集展示を開催します。

三月三日の雛まつりの起源は、上巳の節供という、三月のはじめに行われた禊の行事と言われています。人間の穢れを引き受け川に流されていた簡素な人形は、江戸時代を迎えると次第に凝ったつくりとなり、座敷に飾って楽しむ人形へと変化していきました。

展示室には、寛永雛、享保雛、次郎左衛門雛、古今雛、有職雛など、江戸時代に製作された各種の雛人形が揃います。面差し、装束など、細部に注目して雛人形の変遷を眺めるのも一興でしょう。

あわせて、木地に胡粉を塗り重ねて磨き上げる御所人形、木地そのものに裂地を貼り込む賀茂人形、素焼きの土人形に彩色をした伏見人形など、各種の京人形が集います。

童心にかえって、人形の世界をお楽しみください。

(山川 曉)



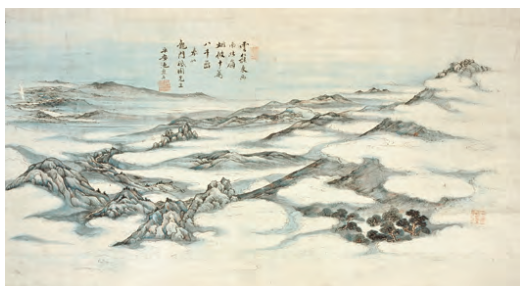
御所人形 春駒持ち 京都国立博物館



大内雛(享保雛) 京都国立博物館



賀茂人形 内裏雛 京都国立博物館



浅間山真景図 池大雅筆

堂に集め、画業の全体像をご紹介します。あわせて、その人となりや幅広い交友関係を示す資料を通して、当時から愛された人間大雅の魅力に迫ります。さらに、大雅が日本各地を訪ねた「旅の画家」であることをふまえ、彼の旅が絵画制作に果たした役割についても検証します。

(福士雄也)

円山応挙や伊藤若冲など、個性派画家がしのぎを削った江戸時代中期の京都画壇。その活況のなかで、与謝蕪村とともに「南画の大成者」と並び称されるのが池大雅(一七三三～七六)です。その作品は、寡欲で恬淡、きわめて謙虚だったと伝えられる人柄を象徴するかのような、清新で銜のない明るさに満ちています。

本展では、大雅の初期から晩年にいたる代表作を一



特別展

池大雅 天衣無縫の旅の画家

平成30年4月7日(土)～5月20日(日)

平成知新館



風雨起龍図 池大雅筆



国宝 楼閣山水図屏風 池大雅筆(左隻)
東京国立博物館(5月2日～20日展示)

よみもの 苦い記憶

京都国立博物館学芸部長 山本英男

「ならばのはしんどいよ」。

「でもね、源氏も頼朝も、金印も見られるんだから、少しは我慢しなくちゃ」。

この秋、「国宝」展に来られた、ある親子の会話である。当館としてもこうした事態を想定しているいろと策は講じていたのだが、さすがに一日平均一万三千人を超える来館者があれば、長蛇の列は出来てしまう。先の親子のような会話があちらこちらでなされたろうことは容易に想像される場所である。この点につき、まずは主催者側のひとりとして、深くお詫びを申し上げたいと思う。

ところで、今から三十数年も前のことだが、私には忘れられない苦い記憶がある。当時、山口県立美術館に勤めていた私は、県庁の新庁舎の落成に併せて「雲谷等顔と桃山時代」という展覧会を企画した。「等顔」といえば山口を治めていた毛利藩の御用絵師で、しかも華やかな桃山画壇の巨匠でもあるから、彼ほど落成記念展にふさわしい絵師はいない」と考えたわけだ。しかし、一般の方々の反応は鈍く、客足も伸びなかった。要するに、「等顔って誰？」というのが大きな理由であつたらしい。あらかじめそれを危惧していた私は、誰もが知っている超有名作品「狩野永徳筆「花鳥図襖」(国宝 聚光院)や長谷川等伯筆「波濤図」(重文 禅林寺)なども併せ展示したのだが(よくお借りできたものだ、今でも思っている)、マスコミとの共催展ではなかったため、宣伝が広く行き渡るの難しかったようだ。

そんな状況を不憫に思ったのか、親しい新聞記者がコラムを書いてくれた。内容は、凄業績を残した絵師なのに回顧展が注目されないのは悲しい、というもの。そして題名は何と付けも付けたり「等顔が泣いている」だった。結局、私は桃山画壇の巨匠に泣きべそをかかされた、唯一の学芸員になってしまったのである。記者氏の得意には心底から有り難いと感じたが、同時に、同じところがチクリと痛んだのはいうまでもない。

それ以来、ひとりでも多くの方々に来館いただけるよう、己が出来ることは何でもやった。テレビやラジオ、新聞や雑誌の取材、遠方での講演会や団体客へのレクチャーなどは当たり前。ミニコミ誌に記事も載せてもらうために、ネコの耳を付けて写真を撮ったこともあった(不幸にも当該号はネコ特集であったのだ)。幸い、近年の日本美術ブームのお陰もあって、昔のような惨めな思いはしないで済んでいる。だが、いつ何時、泣きべそをかかせるかもしれないという不安が未だにつきまとうのは、学芸員ゆえの悲しい宿命なのであろう。

●「国宝」展へのご来館、ありがとうございます！

開館120年を記念して開催された特別展覧会「国宝」ですが、なんと60万人を超えるお客様にご来館いただきました！ご来館くださった皆様に、心より御礼申し上げます。



●南門カフェリニューアルのお知らせ

平成30年1月2日(火)より南門併設カフェ「前田珈琲京博店」がオープンします。こだわりの自家焙煎コーヒーや京博限定メニューを、どうぞお楽しみください。



スペシャルブレンド珈琲「龍之助」



京都産宇治抹茶で作ったスイーツプレート



京都産瑞穂たまごで作ったふわふわ玉子サンド(京博限定)

第25回国際博物館会議(ICOM)大会は京都で開催！

三年に一回、世界中の博物館関係者3千人以上が一堂に会する国際博物館会議(ICOM)の第25回大会が、平成31年(2019)9月1～7日に京都で開催されます。博物館を核とした関西全体の盛り上がり期待されています。今後の動きにぜひご注目ください。



公式キャラクター「トラりん」のLINEスタンプが登場！

平成27年(2015)に生まれた京都国立博物館の公式キャラクター「トラりん」。このたび新たにLINEスタンプが登場しました！可愛いしぐさややんちゃなポーズを集めた全40種類を販売中です。ぜひご利用ください！



土曜講座

- 1月6日「作品から見える人とイヌのかかわり」◆
京都国立博物館保存修理指導室長 大原嘉豊
- 1月13日「京都御所旧蔵品と国立博物館」* 京都国立博物館工芸室長 山川 暁
- 1月20日「近代の有職故実—江戸時代から伝えられた雅び—」*
学習院大学非常勤講師 田中 潤 氏
- 1月27日「梵音具—仏教の鳴器—」 京都国立博物館企画室長 伊藤信二
- 2月3日「埴輪の顔—ハニワ顔のひみつ—」 京都国立博物館主任研究員 古谷 毅
- 2月10日「土蔵は大きなタイムカプセル!—旧廻船問屋、貝塚廣海家からの大型
寄贈を記念して—」◇ 京都国立博物館教育室長 永島明子
- 2月17日「商家に伝わったやきもの」◇ 京都国立博物館研究員 降矢哲男
- 2月24日「浄土真宗の絵画制作と教線拡大」 京都国立博物館研究員 井並林太郎
- 3月3日「御所人形の展開」◇* 京都国立博物館工芸室長 山川 暁
- 3月10日「密教彫刻の世界—安祥寺・五智如来を中心に—」
京都国立博物館連携協力室長 浅瀨 毅
- 3月17日「狩野派をめぐる30年」◇ 京都国立博物館学芸部長 山本英男
- ◆…新春特集展示「いぬづくし」関連講座 *…特集展示「御所文化を受け継ぐ」関連講座
◇…特別企画「豪商の蔵」関連講座 *…特集展示「雛まつりと人形」関連講座
※平成知新館 講堂にて、午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料（ただし当日の観覧券等が必要）。
※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

イベント

《芸舞妓 春の舞》

日時：平成30年1月6日(土) 午後1時～、午後2時～の2回公演 ※各回約30分
場所：平成知新館グランドロビー
料金：無料（ただし、当日の観覧券等が必要）

《開館120周年記念公演 琉球古典 たまゆらの世界》

日時：平成30年1月8日(月・祝) 午後1時～、午後6時～の2回公演
(開場は30分前)
場所：平成知新館 講堂
料金：前売6,500円、当日7,000円
*前売券完売の場合、当日券の販売はありません。

《書道パフォーマンス》

日時：平成30年1月14日(日) 午後(時間未定)
場所：庭園(雨天時平成知新館 講堂)
料金：無料（ただし、当日の観覧券等が必要）

《留学生の日》

京都国立博物館では、留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。本年度は1月14日(日)に実施します。留学生の方は平成知新館名品ギャラリーが無料でご覧いただけるほか、書道パフォーマンスもお楽しみいただけます。ぜひご来館ください(要学生証提示)。

《京都・らくご博物館【冬】～新春寄席～vol.47》

日時：平成30年2月9日(金) 午後6時30分開演(午後6時開場)
会場：平成知新館 講堂
料金：3100円(キャンパスメンバーズは学生証提示により2500円)
※全席指定、平成知新館名品ギャラリー観覧券付

これからの展覧会

- ◆特別展 池大雅 天衣無縫の旅の画家
平成30年4月7日(土)～5月20日(日)

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「仁和寺と御室派のみほとけ—天平と真言密教の名宝—」
平成30年1月16日(火)～3月11日(日)

【奈良国立博物館】

特別陳列「おん祭と春日信仰の美術—特集 社家史料と若宮—」
平成29年12月9日(土)～平成30年1月14日(日)

特別陳列「お水取り」

平成30年2月6日(火)～3月14日(水)

【九州国立博物館】

特別展「王羲之と日本の書」
平成30年2月10日(土)～4月8日(日)

◆明治古都館休館のお知らせ◆

京都国立博物館では、免震改修の基本計画を進めるため、明治古都館を当分の間休館することになりました。それに伴い、明治古都館休館中は、特別展覧会を平成知新館にて開催いたします。特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止することとなりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【今後の名品ギャラリー—休止予定】

名品ギャラリー休止期間：3月20日(火)～4月5日(木)
名品ギャラリー部分開館：3月11日(火)～3月18日(日)
*2F・1F-1～6 展示室(3Fは閉室)

庭園のみ開館：3月20日(火)～4月5日(木)

ご利用案内

【開館時間】<12月19日～2018年3月18日>

9:30～17:00 *金・土曜日は20:00まで開館
<3月20日～4月5日>
9:30～17:00 *入館は閉館の30分前まで

【観覧料】<12月19日～2018年3月18日>

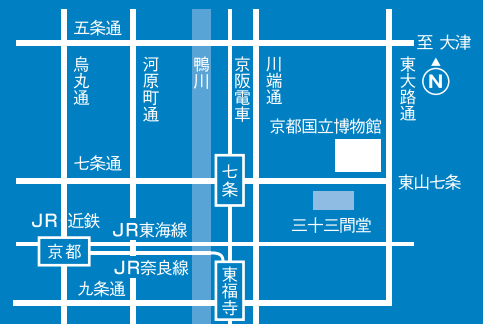
一般520円(410円)、大学生260円(210円)
*()内は団体20名以上
*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料(要証明)
<3月20日～4月5日>[庭園のみ開館期間]
一般260円(210円)(庭園ガイド冊子付き)
*()内は団体20名以上
*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料(要証明)

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館。
年末年始(12月25日～1月1日))

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円)切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527
TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)
ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2018年1月1日 デザイン 谷なつ子
編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社
ライブアートブックス

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM